

平成 22 年中埼玉県の出火件数 全国第 4 位 防ごう、住宅火災

火災の多くは、一人ひとりの心がけで防ぐことができます。
火災から尊い命、大切な財産を守るため、火災予防に対する意識を高め、火災を未然に防ぎましょう。

◆消防本部予防課 ☎ 048-501-0118

火災予防対策 もう一度確認

たばこによる火災の予防対策

たばこによる火災の原因は、喫煙者のマナーによるところがとても大きく、その多くが消し忘れなどの不注意から発生しています。

たばこのような小さな火種でも、燃えやすいものなどに接触すると長時間くすぶり続け、何時間も経ってから燃え出すこともあり、大変危険であることを忘れてはいけません。

- ① 寝たばこはしない、させないを徹底
- ② 灰皿に吸殻をためておかない
- ③ 吸殻は、火が消えたことを確認して捨てる

石油ストーブによる火災の予防対策

この冬は、節電の観点から石油ストーブの使用が多くなっています。

ストーブは寒い冬には欠かせない暖房器具です。しかし、間違った使い方をすると火災につながります。

- ① ストーブの周りには燃えやすいものは置かない
- ② ストーブの真上には、洗濯物は干さない
- ③ 給油時は必ず火を消す
- ④ 近くにスプレー缶などを置かない



こんろによる火災の予防対策

台所は、家の中で最も火を取り扱う機会が多い場所です。

- ① こんろから離れるときは、必ず火を消す
- ② こんろの周りは整理整頓を心がけ、燃えやすいものを置かない



近年の状況

近年、全国の総出火件数は、減少傾向にあります。内訳は、建物火災が全体の約 6 割を占め、このうち住宅火災により亡くなる方は、建物火災で亡くなる方の約 9 割と非常に高い割合となっています。

平成 15 年以降、全国の住宅火災における死者数は毎年 1,000 人以上に達しており、このうち 6 割を 65 歳以上の高齢者が占めています。今後、高齢化社会が進んでいく中、住宅火災による犠牲者の増加が懸念されます。

主な出火原因

建物火災の出火原因の上位は、「こんろ」、「たばこ」、「放火」、「放火の疑い」、「ストーブ」です。また、死者が多くでた住宅火災の出火原因は、「たばこ」、「ストーブ」、「電気器具等」、「マッチ、ライター」、「こんろ」が上位を占めています。



放火火災の予防対策

- 「放火されないための 8 ポイント」を地域の皆さんで取り組みましょう。
- ① ゴミは収集日の決められた時間に出す
 - ② 家のまわりに燃えやすいものを置かない
 - ③ 物置などには必ずカギをかける
 - ④ 家のまわりは照明をつけて明るくする
 - ⑤ 郵便受けに新聞などをためないようにする
 - ⑥ 車などのボディカバーに防炎製品を使う
 - ⑦ 洗濯物の取り込みを忘れない
 - ⑧ 外出する時は、隣近所に一声かける

熊谷市の平成 23 年の火災件数は、平成 22 年と比べて 31 件増えているんだ。平成 22 年の「放火・放火の疑い」による埼玉県の出火件数は全国第 3 位だにや。



住宅用火災警報器の設置はお済みですか？

熊谷市では、平成 20 年 6 月 1 日から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

平成 23 年 6 月時点の推計普及率は、64.4% でまだ設置していない世帯が 4 割近くを占めています。

火災は、ちょっとした隙を狙って発生し、火や煙は凶器となり人間に襲いかかってきます。

住宅用火災警報器を設置することで、火災の発生に早く気づくことができ、早い避難につながります。

まだ設置されていないご家庭は、早めに設置しましょう。

なお、悪質な訪問販売にご注意ください。消防本部、消防署では一切、あっせんや販売は行っていません。

設置済のご家庭でも注意！

① 電池交換を忘れずに

電池タイプの場合、「電池切れかも」と思ったら、早めに交換しましょう。電池が切れる時期は製品によってさまざまですが、中には電池が切れるころになると、音やランプなどで知らせてくれるものもあり、便利です。

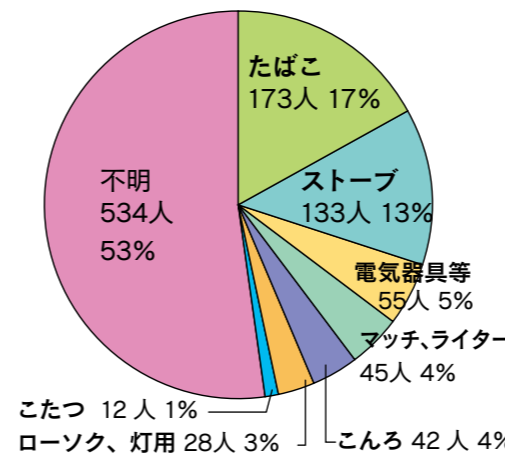
② 作動確認をしましょう

きちんと作動するかどうか、1 か月に 1 度は確認をしましょう。製品によってはボタンを押したり、ひもを引っ張ると作動するものがありますので、確認作業も簡単です。

設置についての詳細は、市消防本部のホームページをご覧ください。下記にお問合せください。

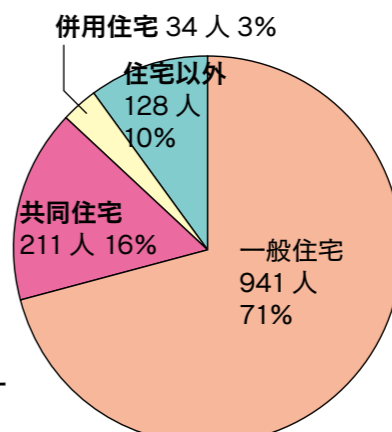
◆予防課 ☎ 048-501-0118

住宅火災の出火原因別死者数



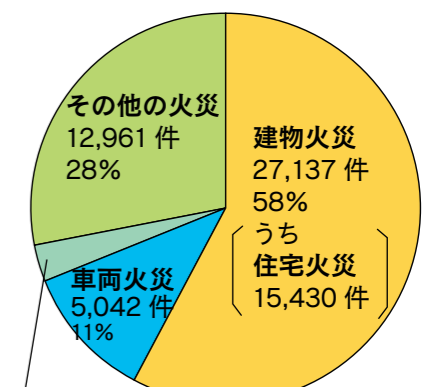
住宅火災による死者数は、1,022 人（放火自殺者等除く。）

建物火災の種類別による死者の割合



住宅火災により亡くなる方は、建物火災で亡くなる方の約 9 割を占めます。住宅とは一般住宅、共同住宅および併用住宅をいいます。

火災の種類別による割合



総出火件数 46,620 件で約 6 割が建物火災です。

※平成 22 年中の火災統計 総務省消防庁より



荒川・利根川の瀬替工事

利根川東遷

1590年(天正18年)、徳川家康は、江戸城の築城をはじめとした江戸の都市改造に取り掛かりました。なかでも河川の改修整備は最も大きな意義を持つ事業で、洪水対策や灌漑などの

治水事業を進め、船による物資輸送の体系を整備しようとしたのでした。この事業は、「利根川の東遷」と称され、この大事業を家臣の伊奈氏に命じました。

1594年(文禄3年)の会の川の締切により、川筋を東に移して渡良瀬川に合流したのを始まりとして、その後、渡良瀬川と鬼怒川を結ぶ赤堀川の掘削が進み、1654年(承応3年)、鬼怒川と合流して銚子へと流れるようになりました。この結果、江戸は河川を通じて直接太平洋と結ばれ、銚子や佐原方面からの水運が発達するようになりました。

利根川中流部の右岸には、熊谷市から行田市にかけて、利根川から垂直方向に伸びる「中条堤」とよばれる1本の堤があります。

中条堤につながる葛和田・依瀬区間には利根川沿いの堤がなく、洪水時には、利根川の水が中条堤の北側に湛水する仕組みになっていました。堤の北側を「遊水地」とすることで、急激な水の流入を防ぎ、堤の南側を守ることを目的とした堤でした。明治初期には全長が約6.6kmあり、堤によって守られる側の村名を取って、利根川側から、「北河原堤」、「上中条堤」、「四方寺堤」と

利根川沿線の家では、「水塚」(洪水の際に避難するための盛土や、その上に設けられた建物)のこともありました。備林を設けて自らの暮らしを守ってきました。ひとたび洪水が起ると、長期にわたって水塚に避難しなければならぬこともありました。そのため、避難生活に必要な食料や生活道具も収納されておりました。母屋には揚舟と呼ばれる小舟が用意されており、洪水時にはこの舟を浮かべて人々を救い出したり、物資を運搬したりしていました。

治水事業を進め、船による物資輸送の体系を整備しようとしたのでした。この事業は、「利根川の東遷」と称され、この大事業を家臣の伊奈氏に命じました。

1594年(文禄3年)の会の川の締切により、川筋を東に移して渡良瀬川に合流したのを始まりとして、その後、渡良瀬川と鬼怒川を結ぶ赤堀川の掘削が進み、1654年(承応3年)、鬼怒川と合流して銚子へと流れるようになりました。この結果、江戸は河川を通じて直接太平洋と結ばれ、銚子や佐原方面からの水運が発達するようになりました。

利根川中流部の右岸には、熊谷市から行田市にかけて、利根川から垂直方向に伸びる「中条堤」とよばれる1本の堤があります。

中条堤につながる葛和田・依瀬区間には利根川沿いの堤がなく、洪水時には、利根川の水が中条堤の北側に湛水する仕組みになっていました。堤の北側を「遊水地」とすることで、急激な水の流入を防ぎ、堤の南側を守ることを目的とした堤でした。明治初期には全長が約6.6kmあり、堤によって守られる側の村名を取って、利根川側から、「北河原堤」、「上中条堤」、「四方寺堤」と

利根川沿線の家では、「水塚」(洪水の際に避難するための盛土や、その上に設けられた建物)のこともありました。備林を設けて自らの暮らしを守ってきました。ひとたび洪水が起ると、長期にわたって水塚に避難しなければならぬこともありました。そのため、避難生活に必要な食料や生活道具も収納されておりました。母屋には揚舟と呼ばれる小舟が用意されており、洪水時にはこの舟を浮かべて人々を救い出したり、物資を運搬したりしていました。



シリーズ 荒川・利根川 第6回

坂東太郎 利根川と熊谷市

利根川東遷と中条堤

企画課 内線228



友との再会に笑顔あふれる

1月8日、熊谷スポーツ文化公園彩の国くまがやドームで、成人式が盛大に開催されました。今年は1,714人の新成人が出席しました。



浦和レッズに所属し、サッカー日本代表にも選出された原口元気さんから新成人の抱負をいただきました。

Photo News フォトニュース



妻沼聖天山で武州天野流妻沼太鼓「天鼓会」による初奉納太鼓が1月1日に、「熊谷鷲組合」による出初め式が1月6日に、三ヶ尻観音山・龍泉寺で熊谷観音縁日・だるま市が1月9日に開催されました。

新年の風物詩、各所で開催



災害時における水道施設の応急復旧に関する協定締結調印式

1月11日、市と熊谷市管工事業協同組合は、災害が原因で水道施設が被災した場合、協力して水道施設を応急復旧するための協定を結びました。



ラグビーワールドカップ2019を熊谷で！ たくさんの署名を届けました

1月11日、ラグビーワールドカップの試合を招致するため、埼玉県招致委員会会長の富岡市長が、12月25日までに集約した83,510人分の署名を日本ラグビー協会・森喜朗会長に提出し、熊谷ラグビー場での試合開催を要請しました。署名にご協力をいただいた皆様にお礼申し上げます。今後も、会場決定まで招致活動を継続して行っていくしますので、多くの皆様のご協力をお願いします。

市報クイズ 12月号で寄せられたご意見を紹介します。

おたよりパレット

テーマ バレンタインデーの思い出

バレンタインデーといえば、カップルや片思いの人のための日という印象が強いですが、日頃の感謝を込めて、チョコレートをプレゼントする方もいらっしゃいました。また、チョコレートのように甘い思い出、逆に切ない思い出を懐かしむコメントが多く寄せられました。※おたよりパレットは、市ホームページでも更詳しく紹介しています▶ <http://www.city.kumagaya.lg.jp/>

- 子どもが中学生のころ、ジャージからわざわざ制服に着替えて、チョコを持っていったことです。スカートが嫌いな子なのに(笑)。(60代・女性)
- 学生時代、好きだった子からその他大勢の一人としてもらったチョコのほろ苦さは、今となっては懐かしい思い出です。今では、女房と娘が自分用として買うチョコのおすそ分けを少ししかするだけで、十分です。食べすぎは健康によくないですから。(50代・男性)
- 初めてチョコをもらった時は、食べるのが惜しくて冷蔵庫に入れたままにしていたら、白くなってしまった思い出があります。(50代・男性)
- この年齢になりますと、贈る相手は孫になります。チョコが大好きなので、笑顔を見ると嬉しくなります。そのときはちょっぴり高級な物を選びます。(70代・女性)
- 毎年、家族に手作りチョコをあげています。甘いものが苦手な父も、そのときばかりは食べてくれます。(30代・女性)
- 学生の時に好きな人にチョコをあげたいけれど、からかわれると恥ずかしいのでクラスの男子全員に贈りました。好きな人の分は少し大きめに作りました。恋は叶いませんでしたが、今ではいい思い出です。(20代・女性)

応募方法

ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「入園・入学式の思い出」についてのコメントを必ず記入のうえ、2月22日(水)までにご応募ください(一人につき一通)。※コメントがないものは無効となります。

〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課
☐kohokocho@city.kumagaya.lg.jp

※なお、市内の商店・企業を知っていただくという趣旨で、当選者にはプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご利用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

12月号の正解

①温暖化 ②さくら
◆応募総数69通中、正解64通

今月のテーマ「入園・入学式の思い出」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

今月の問題

次の□に入ることを、それぞれお答えください。

①平成24年度直実市民□学生を募集します。
②熊谷めめ□フェスタ2012は3月3日(土)に開催されます。

今月のプレゼント

地産市場かまくらご提供の、熊谷産ジャムの詰合せを、正解者の中から抽選で20人に差し上げます。

地産市場かまくら 所在地:鎌倉町84 電話:048-524-2322

市報クイズ

読んで当てよう



熊谷で磨いた技術と経験

小学校3年生から「江南南サッカーを始めた。当初からサッカーをやるならキーパーという思いがあり、自分から自然にキーパーをやるようになっていきましたね。6年生の時には全国大会で3位になることができました。中学生の時はクラブチームに所属

情熱世代 夢追い人

苦難を糧にステップアップ

水戸ホーリーホックGKキーパー
かさはらたかし
笠原昂史さん(野原出身)

し、関東大会出場まででしたが、熊谷での小・中学生時代にレベルの高い環境で技術を磨き、経験を重ねていくことができたのは自分にとって非常に大きな財産です。その後、高校サッカーの名門校へ進学しましたが、その頃には「誰にも負ける気がしない」という自信に溢れていました。

壁を乗り越えた先に

大学では、ポジション争いという大きな壁にぶつかりました。絶対的な存在の先輩キーパーがいましたし、後輩にも良いキーパーが入ってききましたので。試合に出たり出なかつたりの苦難の日々が続きましたが、「負けてなるものか」の一心で練習に励みました。転機となったのは3年のときに正ゴールキーパーとして望んだ天皇杯でした。プロチームを2チーム倒し、4回戦まで勝ち進みます。その時のプレーが現在所属する水戸ホーリーホックの目にとまり、4年の時に特別指定選手として呼んでいただいたのです。そして卒業と同時にプロ契約を交わし、小さな頃から夢であった「リリーガー」になることができました。本当に嬉しかったです。

被災地の光として

プロとして望んだ初のシーズンは、満足のいくものではありませんでした。シーズン前半はコンディションも上がらず、怪我などもあり遠征メンバーにも入れない状態でした。うまくいかない事への焦りがありました。その怪我があったことで自分と向き合う時間ができ、今の状況を成長の糧にしてステップアップしていきたいと前向きに考えられるようになりました。来シーズンの目標はまずは「試合に出ることです。水戸も大震災の被災地の一つです。自分たちが被災地の光として逆境を力に変え、前進していくことが被災者の勇気と希望になることだと信じています。熊谷の皆さんにもこれを機に自分を知っていただけて応援してもらえたら嬉しいですね。



練習中の笠原選手

発行日 平成24年2月1日 ●発行 熊谷市
編集 広報広聴課 〒360-0860 熊谷市宮町二丁目47番地1
TEL 048-524-1111 (内線2006) FAX 048-520-2870

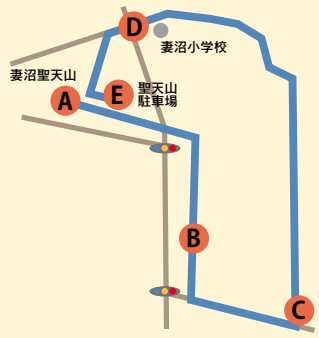
さあ、歩こう！ くまがやさんぽ

市内の名所やちょっとした景色を楽しみながら、ウォーキングができるコースをご紹介します。運動不足解消や新たな熊谷の発見など、楽しみ方をさがすのも良いかもしれませんね。
◆スポーツ振興課 ☎ 内線 391

第8回 聖天山歴史コース

歩く距離 約2.2km

- A 妻沼聖天山 (500m)
- B 両宜塾跡 (400m)
- C 桜並木 (950m)
- D 妻沼小学校裏 (300m)
- E 聖天山駐車場



コースの概要

妻沼聖天山をスタートし、荻野吟子が学んだ両宜塾跡を経由し、春は満開の桜を楽しめる2.2kmのコースです。



B地点付近



C地点付近

- ウォーキングのポイント
- ・歩幅は、肩幅の1.5倍が目安。
 - ・自分のペースで風を感じる速さで歩く。
 - ・専用シューズを利用してアクティブに。

歩いた距離をウォーキングポイントカードに記録し、300kmに達した方には、ささやかな景品を贈呈します。カードは、スポーツ振興課に置いてあるほか、市ホームページからもダウンロードできます。

人口と世帯 ●平成24年1月1日現在 (対前月比)
■人口 204,167人(-101) 男 101,929人(-82) 女 102,238人(-19) ■世帯 82,435(-6)

「市報くまがや」2月号は、72,000部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり15円です。
「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。 平成24年(2012)2月 市報くまがや

「市報くまがや」は、毎月1日(原則)に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも「市報くまがや」をご覧いただけます。(URL) <http://www.city.kumagaya.lg.jp/>